

年間第五主日

福音朗読 マルコ 1・29-39

2021. 2. 7 高円寺教会 9 : 30 ミサ

サレジオ会 濱邊 正 神父

今日、わたしたちはマルコによる福音の一節を耳にしております。イエスの活動、まず病に苦しむ一人の人のもとへイエスが出て行き、その病を癒される場面があります。今日の「聖書と典礼」のパンフレットの表紙に絵がありますように、シモンのしゅうとめへの癒し、「イエスがそばに行き、手を取って起こされると」、その癒しの業が行われます。イエスがそばに来られる、手を取って起こされるという、このことに込められているものが、わたしたちが主との出会いというものをより身近に感じていきたいと思いますが、なかなかそれができないときもあります。しかし、この聖書の中にありますように、イエスがそばに来て、手を取って起こされると、その病が癒されていく。彼女はその後、人々をもてなすというふうに様子が伝えられます。

今、わたしたちの生活の中で、近づくとか手を取るという行為自体が、恐れてしまって近づくこともできず、声をかけるのも、というような、距離を保つことを余儀なくされているところもありますが、このイエスの活動、報告、福音を耳にしたときに、距離を保つということはどういうことであるかを、今一度振り返りを持つ必要があると思います。ある意味、距離を保とうとして、そこに逃げてしまうと言いましょいか、関わりを持とうとしないといったようなところも出てくるかもしれません。そういう部分をもう一度改めて見つめなおして、今日の福音を耳にしたときに、イエスがなされたこと、そのことをわたしたちが日常の生活の中でどのような関わりに変えていけるだろうか、変えさせて頂けらるうか、この機会を頂いているのだと思います。

癒されたその人は、周りの人をもてなす、というこの短い表現ではありますけれども、周りの人との関わりを持つような生き方へと、新たにされる生き方へと招かれているのだと思います。わたしたちも、日常生活は淡々と過ぎていくものではありませんけれども、立ち止まって、思い巡らして、そしてまたその生活に戻って行くときに、あらたな歩みをしていくことができるということ、また、心を入れ替えると言いますか、新しく変えさせて頂いて、イエスの望む生き方へと方向を合わせていくことができるかと思ひます。

忙しい活動の中にあつて、イエスが祈りをベースに、朝早く祈りながら、そ

して町の活動へと、一か所と言わず、必要とするところへ出かけて行こうとするイエスの熱意といいますか、宣教活動の様子がまた今日の福音の中にあります。わたしたちも、生活の中で、忙しいという捉え方をすれば大変な状況でありますけれども、やはりそこには、立ち止まって静かな時を持つということも、また大切かと思えます。それが祈りではないかと思えます。

祈りの中で、そして「出かけて行く」という、宣教に出かけて行くということにありますけれども、わたしたち自身が福音を受け留めて、その喜びをまた人に伝えるということ、その「伝える」というのが、大きな業をなそうというよりも、日常生活の中で出来ること、挨拶をすること、一緒になって取り組むこと、耳を傾けること、そういう一つひとつのことに思いを込めて取り組めたら良いのではないかと思えます。

今週も新しい一週間を始めます。どうぞこのミサの中でイエスと出会い、またお互いにこうして共に居る、信仰生活を共に歩んでいるというこの分かち合いをもって、またそれぞれの場所に戻って行きたいと思えますし、また、それぞれの場所で福音を宣べ伝える者としての在り方を深めて行けたら良いのではないかと思えます。どうぞ、ミサの中で、ここに集まれなかった方々もいます、一緒に思いをあげて、また必要とする祈りはたくさんあると思えますが、その祈りをささげながら、新しいこの一週間を過ごしてまいりましょう。